

現場研修事業の概要

1. ふくしま復興再生道路 小名浜道路事業 …………… 福島県いわき市泉町～山田町
小名浜道路は、福島県が東日本大震災等からの復興・創生を支援するため、復興拠点へのアクセス道路として整備する「ふくしま復興再生道路」の1路線として整備が進められています。

周辺には、重要港湾小名浜港や小名浜臨海工業団地が立地し、小名浜港背後地においては、環境水族館や観光・物産施設といった交流拠点、さらには、震災復興土地区画整理事業などを活用し、商業サービス拠点を核とした再開発を行うなど、港と市街地が一体となった魅力あるまちづくりが行われています。

この小名浜港を中心とする地域と常磐自動車道を自動車専用道で結ぶことにより、物流・観光ネットワークの強化が期待されます。

また、防災面からも、東日本大震災時に緊急物資の受入港として大きな役割を果たした小名浜港と、緊急交通路として被災直後から救援活動や緊急輸送を支えた高速道路ネットワークを直結させることで、大規模災害時の円滑な緊急輸送を確保することが期待されています。



2. 福島県復興祈念公園 国営追悼・祈念施設整備事業 …………… 福島県双葉郡双葉町・浪江町

2011年（平成23年）3月11日に発生した東日本大震災により、福島県をはじめとする太平洋沿岸部を中心とした広域にわたり甚大な被害が生じました。この未曾有の大災害を受け、国と福島県が連携して、「生命（いのち）をいたみ、事実をつたえ、縁（よすが）をつなぎ、息吹よみがえる」を基本理念とする「福島県復興祈念公園」の整備が進められており、令和7年度に完成する予定です。

また、当公園の中には、犠牲者への追悼と鎮魂や震災の記憶と教訓の後世への伝承とともに、国内外に向けた復興に対する強い意志を発信するため、国が中核的な施設として「国営追悼・祈念施設」を設置することとしており、こちらも令和7年度の完成を目指して整備が進められています。



3. 「3.11伝承ロード」の取組みについて

2011年3月11日に発生した東日本大震災により、東日本の太平洋沿岸500kmにも及ぶ広い範囲が甚大な被害を受けました。被災地ではそのような被害の実情や貴重な教訓を伝えていくための施設が多く整備されています。しかしながら、それらの震災伝承施設は、複数の県にまたがる広大なエリアに数多く点在し、これらの情報を集め限られた時間で巡ることは容易なことではありません。そのため、目的や時間に応じて効率的に施設を訪問できるように、伝承施設情報を分類整理して提供し、案内マップや標識を設置しネットワーク化することとしています。

このように、震災伝承施設をネットワーク化する「3.11伝承ロード」は、「震災伝承のプラットフォーム」であり、地域の防災力の向上と被災地の地域振興を目指すものです。

① 東日本大震災・原子力災害伝承館 福島県双葉郡双葉町
福島県では、東京電力福島第一原発事故に伴う原子力災害により、今も数万人が古里を離れての生活を余儀なくされ、風評被害への対応も終わりが見えません。

県内の犠牲者は4,000人を超え、このうち避難生活での体調変化や過労など間接的な原因で亡くなる「震災関連死」は2,000人以上に上り、福島、岩手、宮城の被災3県で突出して多い数となっています。

県民が経験した複合災害がいかに過酷であり、そして今もその影響が続いていることを物語っています。

東日本大震災・原子力災害伝承館では、展示や語り部、研修、調査・研究を通じて、未曾有の複合災害について福島で何が起き、どう向き合ってきたかを伝え、防災・減災に向けた教訓を国内外や未来へつないでいくこととしています。



② 震災遺構 浪江町立請戸小学校 福島県双葉郡浪江町

請戸小学校は、2011年3月11日未だかつて経験したことのない大地震・大津波とその後の原発事故に見舞われ大きな被害を受けましたが、全員が無事避難することができた奇跡の学校としても知られています。

倒壊を免れた校舎に刻まれた脅威と、全員避難することができた経験を伝えるため、2021年より震災遺構として一般公開しています。

